

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

母子百合

劇的な百合

娘が可愛すぎて
百合えっちやう
母は正しいのか？

母と娘の
絆と欲望が
交錯する瞬間

基本 CG20 枚

本編 237P

セリフなし差分含む全編 353P





はあっ...

♡...♡♡

んん...っ

あっ...♡

ああんっ♡

彼女の名前は美咲
孤独な愉しみに耽る少女
オナニーを覚えたのは
最近のことだ

この間親しい女友達と
オナニーの話をした時
クラスの子や男性アイドルを
思いながら自慰をするときいた

イキそう…♡

…さん……っ

美咲が性器をいじりながら
思っているのは同世代の
少女たちとは少し違う





お母さん…♡

そつ、彼女が思いを
寄せる人とは
自身の母親なのだ

あたしのアソコ、
お母さんの指でいじって…♡

願望が思わず
口から出るが
本人は気づいていない

はあっ…

自分の欲情の対象が
男性でなく女性で
そのうえ母親だったのは
とまどいがあった



おああ、すごい…♡
こんなに濡れちゃった♡

両手で丁寧にいじると
こんなに気持ちいいんだ…♡

今度からこうしよ…

いっっ…

しかし同性を愛する
背徳感よりも
少女の若い好奇心と
性欲が遥かに勝っていた



身体から湧き上がる欲望に
もっと身を任せ知りたい
そんな少女の健気な思いが
自慰を夢中にさせる

んんっ…

ああっ…

気持ちよくなってきた…

くっ…

あんっ…
お母、さん…
あぁっ……

内側に溜まっていた
蜜液が溢れ出し、
お尻を伝って
シーツを濡らした

うっ…

この指がお母さんのだったら
いいのにな…

自分のおっぱいを吸う女友達と
か細い指で性器を撫で回す母を
交互に、妄想し、
身体は熱くなり、下腹部が疼く



時折、同級生の女友達と
身体をくすぐったり、
ほっぺにキスするのを思い出し
妄想に変化をつける

んんっ…

どうしよう…あたし
本当にこのままでいいの？

内荒れ狂う本能と
親しい友人や母を
性欲の捌け口に使っ
罪悪感がせめぎ合う



最後の仕上げに奥の一番疼く
ところに指を入れようとするが
処女膜が邪魔で入らない
そこを触れば気持ちいいのに

ああ…んっ…
はぁっ…

やっぱりお母さんに
触ってほしい…
女の子がいちばん
気持ちよくなれるところ…

先ほど溢れ出た愛液の
甘い香りと汗の酸っぱい
匂いが混ざり合い、
濃厚な匂いが部屋を満たす





愛する女性たちと
もっと深く触れ合いたい…
身体の深いところで
最愛の母を感じたい…

あ…んあっ…
はあっ…

あ…はあっ…

あんっ…♡
ああ…♡
ああっ…♡

口数は少なくなり、
微かに漏れる吐息と
性器を激しくいじる水音が、
部屋に静かに響く



あ...いくっ...
はあっ...

イキそう...はあっ...

いいっ...♡
ああ...♡
いいよっ...♡

あんっ...♡
いい...♡
ああっ...♡

あ...んあっ...
いくっ...

乳首は硬くそり勃ち
クリトリスは充血し
興奮し切った少女の体は
絶頂に備え息を吞む



喘ぎ声を漏らしながら
美咲は絶頂に達し
甘美な感覚にビクビクと
柔らかい身体を震わせた



はあっ…

ふう…

ああ…♡

私、もっと欲しいな…

私の指だけじゃ
本当に気持ちよくなれない……
そんな思いをよぎらせながら
意識が遠のいていく

スウスウと寝息を立て始める
つけっぱなしの照明が
内股の銀色に光る蜜を
照らしている



壁一枚隔てた空間で
自慰に耽るこの女性は
美咲の母親・綾華だ

いいわ…♡

血は争えないのか
服を胸まであげて
下は脱ぎかけ、
娘と同じ姿で性器をいじる

美咲……っ

綾華がオナニーしながら
思い浮かべているのは
隣の部屋で自慰する娘だ



娘がオナニーを覚えた
知ったのは半年ほど前、
自室で現場を目撃した時だ
あん…♡

初めは驚いたが
自分も娘の年頃には
隠れて自慰していたことを
思い出して黙ってた

気持ちいい…♡

あぁっ…

うっ…

はぁっ…

むしろ可愛い娘の自慰行為の
美しさに感動し
バレないように観察するのが
日課になっていた



美咲ちゃんさっきあたしの
名前を呼びながら
オナニーしてたな…

ああ…

やっぱりあたしとのセックスを
想像しながら
オナニーしてるんだわ…

ここ…

娘が自分のことを
思いながら致していることを
薄々勘づいてはいたが
知らないふりをしていた

美咲ちゃん…♡



だが先程覗き見た時、
娘は自分のことを
性愛の対象としてみると
確信した

こんなみっともない
あたしの姿見せたら
どんな願するかな…

あっ…

見せてみたいけど
やっぱり軽蔑されて
嫌いになっちゃうかな…

身愛おしい娘が自分を
女としてみてる嬉しさと
母としての責任の狭間で
揺れ動く

んっ…



美咲の母、綾華はれっきとした
レズビアンだ。
学生の頃から同級生、年下、
社会人などの女性と付き合い

いいっ…

気持ちよくなってきた…♡

レズ風俗やマッチングアプリ
様々な女性との関係性を求め
欲望の赴くままに
同性愛者の経験を積んだ

はあっ…

ああんっ…
美咲…
ああああっ…

大学時代には付き合っていた
女性と一組のカップルで
四人でレズの乱交生活に耽った
日々もあった



理想を追い求める一方
女性同士できちんと信用を得て
生活をしていくのは厳しいと
感じるようになっていた

んんんっ…

気持ちいい…♡

今の旦那と結婚したのは
社会的な地位のためだ
だが同時に傷ついた心の隙間を
埋めてくれたことも理由だ

ああんっ…

ああいい…♡



夫はエリート商社マンで
高い収入で悪い人物ではない
女性同士の関係に傷心していた
私を癒してくれた

あたしやっぱり
美咲とえっちしたい…
女同士で気持ちよくなりたい…

決して悪い選択ではなかったし
幸せな結婚生活を送り
気がついたら娘の美咲も
生まれていた

あ…
んんっ…
はあっ…

自分がレスビアンであることも
忘れてしまっていた
娘の美しくなった肢体に
気づくまでは



ある日一緒に風呂に入った時
娘の美しい容姿に魅了された。

久しぶりに
一緒に入るね〜

シャンプー変えたから
髪質少し変わったんだよ

まだ成長途中で華奢な体つきは
絹糸のようになやかで
繊細で優美だった



娘の肌は真珠のように白く
透明感がありシルクのように滑らかだ
無垢な美しさを保ち健康的な
輝きを放っていた

あたしのおっぱい前より
大きくなったんだよねー

早くお母さんくらいの
大きさにになりたいなー

顔立ちも幼さを残しながら非常に整っていた。
大きな瞳の中には純粹な
好奇心と無垢な心が映し出されていた



彼女の腕は細くながく、
指先まで優雅に伸びている
爪は小さく整っており
ピンク色の優しい色をしている

友達に聞いたらもう
生えてるって

お母さんみたいにびっしり
生えてきたら
どんな感じのかな…

彼女の脚は、長くまっすぐに
伸び、その華奢な
足首が全体のバランスを
見事に整えていた。



娘の裸を見てかつての記憶
が鮮明に甦り胸の中で欲情が
炎のように燃え上がった。

早くお母さんみたいにな
綺麗なカラダになりたいなあ

ごめんねさつきから
お母さんの裸、
ジロジロ見て…

綾華は秘めていた愛と欲望に
気づき同時にどう扱うべきか
わからない混乱と恐れが
押し寄せた



娘の美しさは彼女が注いだ
全ての愛と時間の結晶であり
母親としての誇りだった。

なんかさっきからあたしの
おっぱいばかり見てない？

なんだかえっち…

娘の未来が、さらに輝かしい
ものであることを願うゆえに
心の中は穏やかではなかった



あ…美味…
あんっ…
はぁぁっ…

娘の美しい体を
しっかりと思い浮かべながら
性器をいじる手を早め、
絶頂に向かっていく綾華

次第に理性は欲望に覆い隠され
身体が絶頂を求め
いてもたってもいられない







イクっ...♡

あんっ...♡

あぁっ♡

あんっ...♡

あぁあぁあっ...♡

あぁあぁ♡

背徳感と快感が織り混ざった
乱暴な快楽が荒れ狂う
愛液がドバツと噴き出て
内腿とシーツを濡らす



ああ……♡

はあっ……

美咲…

ふう?

娘をオカズにした罪悪感と
自慰行為の心地よい疲労感が
柔らかな身体を眠りに誘う

娘をオカズにした罪深い
変態行為をしたことで
甘い満足感が身体に染みていく
気持ちよさそうな寝息を立て始めた。



翌日、二人は
地元のショッピングモールに来ていた

夏の日の晴れた午後、学校も休みのせいか
ショッピングモールには人々の活気が
溢れていた。ガラスの天井から光が
降り注ぎ、にぎやかな雰囲気演出している。

この日は父親がオーストリアへの
海外出張で不在だった。
普段は家族揃って過ごす場所だが
今日は二人だけの冒険だ。

モールには色とりどりのショップが
立ち並び、ショーウィンドウには
最新のファッションアイテムが
飾られている。

父親不在をいいことに、
二人は目を輝かせながら
お気に入りのブランドを買い込み、
試着室を賑やかす。

お気に入りのアイテムを、
一通り買い込んで満足げな
娘の姿を見て、母の綾華は
嬉しそうに微笑む

いっぱい買っちゃったね…♡

気にしないでいいわよ
とっても似合う服しか
買ってないんだから

優しい言葉をかけると
娘の美咲はとても
嬉しそうに頷いた



他の母娘連れも同じように
楽しげにショッピングをしている
とっても似合うよ、声をかける
光景はどこにでもある一幕だ

あの子の服かわいいな

ね、みんな楽しそうね♡

母と娘が仲睦まじく買い物をする
どこにでもある風景
二人はそこにごく自然に
溶け込むことに安心感を感じる

しかし娘でオナニーする
母親は自分だけではないか？
娘の可憐な姿を見てやや
欲情しかけていることに気づく



変態な母親で
娘から軽蔑されないだろうか：
そんな不安から昨夜の出来事を
思い出してしまう

そういえば最近
あたしのSNSで…

S
N
S
?

変態いくら娘が好意を寄せて
いるからといって自分を曝け出したら
嫌われてしまうかもしれない
恐怖があった



最近SNSで
私の投稿が
バズったんだよ！

母の懸念もどこ吹く風で
娘は自分のSNSがバズった
ことを自慢げに話してきた

へえ！どんな投稿だったの？

ダンススクールに通う娘の美咲は
練習動画や友達との写真を
積極的に上げてよく楽しんでた
のは知っていた

楽しげに話す娘を見て
自分も嬉しくなってしまう綾華
興味津々にスマートフォンを
覗き込んだ



綾華は娘の自慢に驚いた。
スマートフォンを覗き込むと、
そこには美咲と彼女の友達が
ホットパンツ姿で笑っていた

彼女たちは練習の後で
肌は汗に濡れて輝き
背景には陽光が差し込み、
笑顔は若い活気で満ちていた



ええっ…!!

ほら、この写真なんか
3万いいねくらいついてるんだよ!

この写真すごいみんなに
かわいいねって
褒められてるんだよ！

美咲は無邪気にただひたすら
得意げに自慢してくる

そ…そうっ…！

14:19

三人で揃えてみた♡



場所:地球53万回表示
1.7万件のRT 3.7万件的いいね

美咲は笑顔で自信に満ちた顔で
カメラを見つめ、その両隣の友達も
同じくらいの魅力と才気を
放っていた

タンクトップの紐が肩の
形を強調し、ホットパンツが
彼女たちの脚線美を
際立たせていた

美咲と彼女たちの姿からは
若々しさと自由さがこれでもかと
溢れ出ており、一つ一つの部位が
輝きを纏っているように見えた

あとね、これより
もっと伸びたやつが
あるんだよ！

14:19

三人で揃えてみた♡



場所:地球53万回表示
1.7万件のRT 3.7万件的いいね

ええっ…
もっとすごいのが
あるのっ…！

綾華は息を呑むような
美しさに圧倒されながらも
娘と彼女たちの活気に
揺り動かされると感じた

彼女たちの姿と笑顔には
今の自分にはない何かがあり
自分の今の悩みがひどく
つまらないものだと思った

14:19

こんなこともデキま〜す！！



場所:地球 277万回表示
2.4万件のRT 9.8万件のいいね

バランスをとるために片足を
あげる姿はスラリとした
生足を強調している

ほら！これとか
10万いいね近いんだよ！

す…すごいわねっ…！

彼という目線で彼女が
見られているかを想像すると
少し心配になってしまうが、
娘の肢体に見惚れてしまう

娘は昔クラシックバレエを
習っていて体が柔らかかった
バレエから今風のジャズダンスに
移ってもそれを生かしていた

最近流行りのイラストレーターさんが
よくこういう絵を描くんだよ！
実演すると面白いのかもね！

14:19
こんなこともデキま〜す！！



場所:地球 277万回表示
2.4万件のRT 9.8万件的いいね

そ…そうなのね…

彼鍛え上げられた体と
引き締まった足の筋肉と
腹筋が美しく彼女の
魅力を引き立てている

利発で社交的で友達も多く、
魅力的な娘だったが
SNSでここまで人気だとは
知らなかった

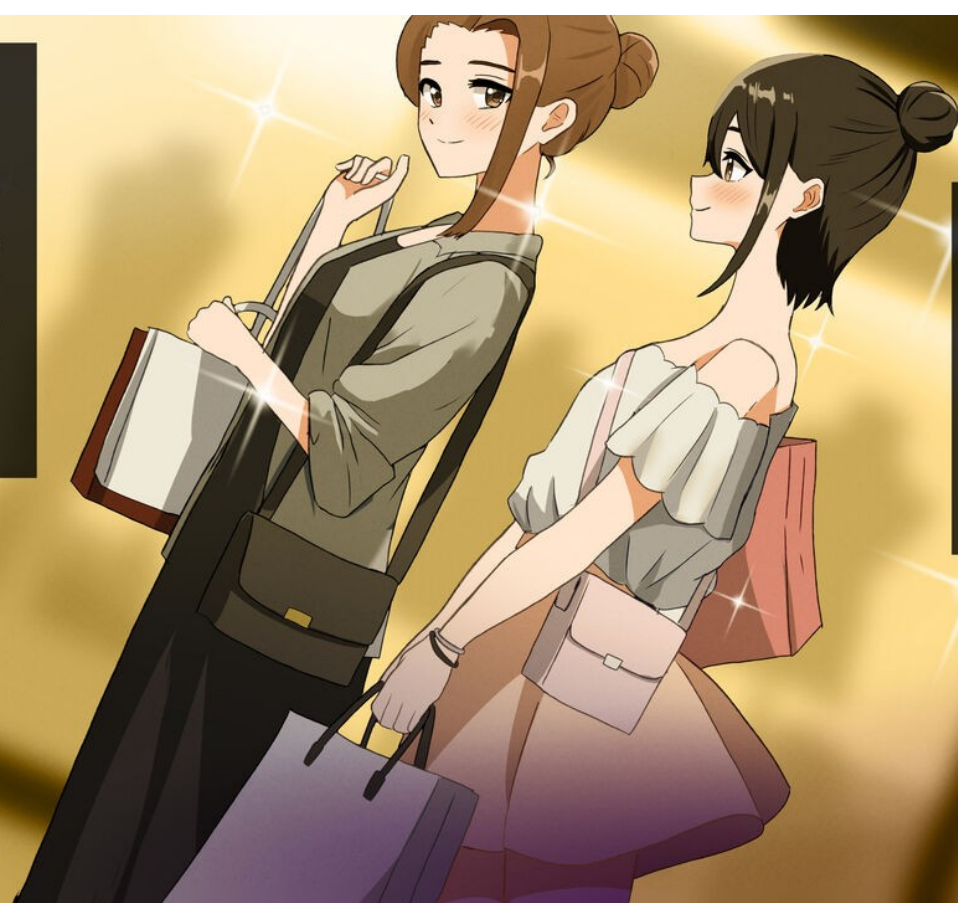
コメントもいっぱいきてて、
読みきれないくらいだよ！



み…みんなにとっても
愛されているのがわかって
お母さんとっても嬉しい！

彼女の新しい価値観と
自由な姿に母の綾華は
誇らしいと思うとともに、
自分の中に新しい風を感じた

娘のSNSでの振る舞いに
何か言ってやるべきか迷うが
むしろ感心してしまったので
何も言わないことにした



二人は一通り話が盛り上がったあと、
カフェで冷たいドリンクを注文し、
一息ついたあと、日も傾いて
きたので帰ろうという話になった

あー最後にあのお店見てみたい！

そろそろ家に帰る流れになった時
娘の美咲が興奮気味に指を指す。
彼女の指先にはかわいらしい下着が
並ぶランジェリーショップがあった

あら、あんなお店もあったのね…
なんだかわいらしいわね

綾華は展示されている商品を
一瞥して少し困ったような
表情を浮かべる。大人向けの
セクシーな下着も扱っていたからだ



可愛い下着がいっぱいあるよ。
ちょっとだけみに行こう？

美咲が必死に何かを懇願する様子は
何にも代え難いほど可愛い。
綾華はため息をつきつつも
優しい笑みを浮かべながら応答する。

仕方がないわね、見るだけだから
少しだけよ

綾華は結局娘の熱意に負けて
しまった。結局喜ぶ顔が見たいのだ。
美咲は歓喜の声を上げて
にこやかな表情になって可愛い



やったー！ありがとう！
お母さん、ほんのちよっと
見るだけだから。

美咲は小さくジャンプしたあと、
小走りで店のショーウィンドウに
向かっていく。
美咲の目は期待で輝いている。

あの子ったらああいうのにも
興味が湧く年頃になったのね…

綾華は娘の後ろ姿を見ながら
エロティックな下着をつけた
娘の姿を妄想してしまう。





わあ…
この下着かわいい…♡

美咲、この下着が気になるの？…

美咲が目にしたのは
一際セクシーな下着で
ピンクとパステルカラーが
可愛い、Tバックの下着だ

大人向けの下着に釘付けになっている
娘の姿。憧れと夢を描きながら
あの美しい下着を纏っている姿を
想像しているのだろう。

本当にかわいいわね…♡

綾華はその姿を見て成長していく
娘の未来に想いを馳せた。
同時にこの下着を着せてやれるのは
自分だけだとも思った。

よくないことかもしれないが
娘のために買ってしまっても
いいかもしれないと思いは始める

ねえお母さん。

私とお揃いで

あの下着着てみない？

娘の意外な提案に

戸惑いを隠せない綾華

娘に着せたいと思うだけで

自分も着るといふ発想はなかった

ええ、あの下着は大人向けで
あなた向けでは…

すぐに提案を否定しようとするが自分と娘があの下着を着ている場面を想像すると言い淀んでしまった

ああいうかわいい下着
あればお父さんも
喜ぶんじゃない？

こら、そういうこと言うんじゃないわよ

無邪気に娘の口から
性に関する冗談が
出てくるのに
戸惑いと同時に嬉しい

娘にエロティックな下着を
着せたいという妄想を
実現させたいという思いが
膨らんでいく



じゃあ、買っちゃおうか！
あなたに買ったのは
お父さんには内緒よ

やったー嬉しい！
お母さん大好き！

身娘は元気よく喜び、
母の身体を抱きしめた。
娘の笑顔には幼いながら、
大人びた表情を浮かべていた

お母さん絶対似合うと思うよ

女性店員が二人の妙なやり取りに
やや不審な顔をしていたが、
妄想を膨らませた
綾華はそれに気づかない

あなたもとても似合うと思うわ…

お互いの姿を妄想する二人。
怪訝な店員も意に介さず、
会計を済ませると
二人は足早に帰路についた





静かな午後、青空が広がる昼下がり、
ショッピングモールから戻ったばかりの
母と娘が玄関のドアを開く音が響いた



娘の美咲は楽しみにリビングに進み
母の綾華はその後に続く。
二人が手に持ったショッパーには
新しく買ったお揃いの下着が入っている

ただいま！
お母さん！早く早く！
新しい下着着てみようよ！

美咲は無邪気な笑顔で母を急かす。
あまりに積極的で母の綾華は
戸惑ってしまう。

もう…そんなに慌てて…っ
…まずは美咲ちゃんから着てみようか？

二人はリビングのソファに腰掛け、
買ってきた下着を取り出した。



えー一緒に着替えようよー♡
あたしだけ一回裸になって
下着姿なんて恥ずかしいじゃん

実際に家で現物の下着を
手にとって見ると布面積は本当に狭い
娘可愛さにこんなものを買って
よかったのかと冷静になる

すごくえっちで
かわいい下着だね…♡
お母さんも絶対似合うよ！

幼い顔で下着をいじる
鏡の前の娘の姿は他にはない
いやらしさがある



このリビングで
着替えちゃおうよ！
お父さん今日いいし！

ええっ…

娘の大胆な提案に
驚きつつも、夫がいない家で
娘と同じ部屋で着替えるのは
開放感がある

じゃあ美咲、
お互いに見えないように
反対を向いて着替えようか♡

うん、わかった！

倫理を気にするより前に
どんどん話が進む
美咲は母と背中合わせに
なるように位置を変えた

準備できた？

うん！

じゃあ始めようか…

お互いの身体を見えないようにに
注意しながら綾華はまず
上着の紐を丁寧に外しながら
静かに上着を脱ぎ下着姿になった

なんかすごくえっちなね…

一方の美咲も母の背中越しに
上着の袖を掴み一気に上まで引き上げる。
地味で白いブラジャーが柔らかな午後の
日差しを受けている

んしょ…

美咲は少し照れくさそうにしながら、
勇気を出してブラを脱ぎ、上半身裸に
なった。美咲の乳房は滑らかで、
小さな体には健康的な輝きがあった



私もよ、美咲ちゃん。

美咲が消え入りそうな
恥じらいのある声で
背中越しの母に報告した。

お母さん、
あたし、
今はただだよ

美咲は次に白の地味なパンツを
ゆっくりとおろし、足元に落とした
紺の靴下のコントラストが
美しい脚線美を描いている

靴下も脱ぎ、一糸纏わぬ姿になった
全裸になった美咲は
恥ずかしがりながら
その瞬間を楽しんでいた。



んしょ…

母娘全裸でお互い同じ空間に
いて背中あわせという状況は
とてもエロティックで
幸せな高揚感があった。

まだみちゃだめだよ、
じゃ新しい下着を着ようか

うん……

時折二人は背中合わせのまま
静かに着替え始めた。
静寂が部屋を支配する。

……



お互いの布ずれの音を聞きながら
パンツに足を通し、背中ホックを
慎重に止めていった。

できた？

うん！着替えた！

二人は同時に振り返って
お互いの姿を確認した

広いリビングルームの
一角にある大きな鏡の前で
娘は下着姿で佇んでいた。
意外なほどよく似合っている。

お母さん、
とっても素敵！
こんなにかわいい下着が
お揃いだなんて夢みたい！

後ろの姿に映った
Tバックのパンツには、
小さなお尻の肉が強調され
るように食い込んでいる



綾華は自分より娘の美しい姿に
目を奪われていた。心の中で
かわいいと何度も呟いたが
声にはならなかった。

美咲、あなたはとっても
美しいわ…！

声を震わせながら
ようやく声を絞り出す綾華
娘の顔に母に褒められた
自信が満ち溢れていた





…あたし…知ってるんだよ…
お母さんがあたし名前呼びながら
オナニーしてるの

娘の口からオナニーという
単語が発せられた瞬間
動悸が激しくなり頭が
真っ白になった

どういふことなの…

えっ…

…ねえお母さん…今度から
あたしのこの下着 姿を
思い出してオナニーするの…？



昨日だってあたしのオナニー
覗いていたの
気づいてたんだからね…

当たり前だよ…
あんなに声出して…
誰だって気づくよ

え…ちょっとどういう…
気づいてたの…?

ご、ごめんなさい。
あなたのオナニーがとっても綺麗で
見惚れてしまって…

別にいいんだよ、半分お母さんに見せるためにやってたし…
名前呼んでたのも
お母さんの真似だよ

だいたい一人えっちの時
人の名前呼んでしたり
しないでしょ…



こんなはしたない
お母さんでごめんなさい…
嫌いにならないで…

じゃあね…罰として
お母さんの
おっぱい見せてほしいな…!

考えてもなかったことと
更なる娘の予想外の提案に
頭が混乱する



お、おっぱいを見せたら
許してくれるの？

一年位一緒に
お風呂に入ってないから
また見てみたいな…

娘と一緒に風呂に入らなく
なったのは、彼女の裸体が
魅力的でこのままだと手を
出しそうと思ったからだ



綾娘の言われる通りに
綾華はブラのホックを外す
滑らかな曲線を描く乳房が
娘の眼前に現れる

わあ、やっぱり
お母さんの
おっぱい綺麗…！

目を輝かせながら母の
おっぱいを凝視する娘。
見つめながら自身の
ブラのホックに手をかける



え、ちょっといきなり…

お母さんも見たかったんでしょ
あたしのおっぱい。

外出から帰ってきたばかりで
胸が汗ばんでいるのがわかる
薄ピンクの小さな乳首が
硬く勃起しているのが確認できた





服着ないなら
あたしにこのあと
どうして欲しい？

な…なんで
服もう着ちゃうの？

じゃあ服もう着よっか

艶かく乳房を揺らしながら
娘は明らかに母を誘っていた
母親の口から直に出てくる
自発的な要求を聞きたいのだ。

美咲のパンツの下が見たい…
おねがい…!!

満足げな笑顔を見せる美咲
おずおずと指を下着に
絡ませるとゆっくりと
パンツを脱ぎ始めた



わあ…！

んもう…！

そんなにジロジロ見ないで
恥ずかしいんだから

一年ぶりに真正面から
見た娘の裸はより丸みを
おびて柔らかな身体付きでより
女らしくなったように見えた



恥ずかしそうだから
お母さんも一緒に
脱いじゃおうかしら。

んもう、そんなこといって
あたしに見せつけたい
だけなんでしょ

二人の緊張感はほぐれていた
美咲の無邪気な笑顔と
純粹な心が場を和ませ
場の空気を温かく包み込んでいた



ほら、お母さんも裸だよ
ちゃんとよく見て…!!

うん、お母さんちゃんと
見てるよ…!!
お母さんの裸、とっても綺麗で
えっちなだよ…!!

お互い一糸纏わぬ姿に
なった二人は心も身体も
遮るものは無くなった



しばらくお互いの裸体を
視姦しあう母と娘。
最高にエロティックな空間に
静寂が支配する。

…あたしお母さんの
おっぱい触りたい…
もうガマンできない…

…いいわよ
お母さんも美咲の
そのか細い指で
触らりたい…





...あたし
お母さんとおっちな
ことがしたい...!

...お母さん...
本当に触っても
いいんだね...?

...美咲
こっちへきて...

美咲はそつと後ろから
母の背中に抱きつき、
彼女の手は母の身体を
撫で始めた。

あっ…♡

ああんっ♡

ここ…っ♡

んん…っ

はあっ…

美咲の手のひらが
綾華の胸をしっかりと
握られ、その温もりが
伝わってた



乳首触られるの
気持ちいい...？

ああん...♡

いやん...♡

いきなり
そんなふうに
触らないで...っ



お母さんの乳首、
すごく硬くなってる
勃起してるよ...♡

はあっ...

んもうこの子ったら、
どこでそんな言葉
覚えたの...♡



はじめて触った時より
どんどん硬くなってきたて
すごい...♡

はぁ...♡

美咲の細くて
可愛い手に乳首触られると
気持ちいいからよ...

いいっ...



あたしもこうやって
乳首摘んでいじるの
好きだから
お母さんも好きかなって…

あぁっ…

んっ…

んんっ…

美咲もいつもやってるのね
血は争えないわね…

二人は密着した姿勢で
お互いの体温と
静かな快樂を楽しんだ

お母さん…
大好き…♡

あん♡

私も大好きよ、
美味…♡

綾華は背中に当たる娘おっぱいの
感触に心地よさを感じ、
乳首をつまむ優しい刺激で
すっかりリラックスしていた



遠くの方の外から子供の声が聞こえる。安穩とした昼下がりでそんな日常の片隅に二人の穏やかな世界は花開いていた

んんっ…

ふふ…あたしのために一生懸命触ってくれてありがとうね…

美咲は母の胸を夢中で揉みしだきながらこの関係が続く幸せな未来を空想していた



ああ…んっ…
はあっ…

美咲…お母さん
それ以上おっぱいいじられると
そろそろいっちゃいそう…

いいよ…
あたし、お母さんが
あたしの指でイクとこ
見てみたい…

あん♡





あ…はあっ…

あんっ…♡

ああ…♡

ああっ…♡

あん…んあっ…
はあっ…

ああ…お母さんが
感じてる顔っ…
すごく可愛いよっ…
ずっとみていたい…



あんっあ…っ♡

あ…っ!

イクっ…♡

あっ…♡

すごい…
ビクビクしてる…



ああ……♡

はあっ…

お母さん、美咲に
乳首を触られただけで
軽くイッちゃった…

ふっ？

まだキスだって
してないのにね…



じゃあ次は
美咲ちゃんと
キスしようか……♡

ええあたし
女の子同士で
キスできるんだ…
それもお母さんと…

美咲の上擦った声からは
これから起こることの
期待で満ち溢れていることが
伝わってくる

二人は顔を寄せると、
少しだけ顔を斜めにして
唇を重ねて、お互いの腕を
背中から抱めた

ん…

おっ
♡

おっ
♡

おっ
♡

んん…っ

おっ
♡

はあっ…

あっ…♡

どこにでもある閑静な
住宅街の片隅に、
静謐な空気が流れ始めた



ああんっ…♡

はあっ…

んっ……美咲の身体、
ちいさくてやわらかい…♡

ちゅ♡

じゅ♡

ちゅ♡

じゅ♡

ああん、お母さんもだよ。
思ってたより細くて小さい…

キスしあう親娘は、
普段とはまったく異なる
笑みを浮かべながら
唇を重ね続ける。

お互いの唇を重ねるだけ
では飽き足らず、
二人はほんのり出した
舌を絡め合い、舐め合った。

はぁっ…

あああ…♡

ピチャピチャと控えめな
音が静寂な部屋に響き渡る
唇と唇の間に白く輝く濃厚な
透明な糸が引く。



唾がこういうふう
に糸引いてると
すっごいえっちだね…♡
こんなに濡れちゃった♡

んふん…

ああ♡

じゅわ♡

じゅわ♡

ああ♡

そうね…それと美咲の乳首に
あたしの乳首がコリコリ当たって
気持ちいいわ…♡

あたしも気持ちいい…

母の綾華は娘の不十分な
発育の胸に手をやり、
娘の美味も母の成熟した胸に
手を触れ、揉み合った



母娘で唾液を交換し合うような
不潔なやり取りのはずなのに、
その光景は神秘的ですらあり、
汚れない美しい様子に見えた。

あああんっ…
美咲のちいさな舌、
とっても気持ちいい…

うっ…

お母さんの舐め方も
えっちで素敵だよ…
お母さんの味がする…

そりやお母さんの舌を
舐めてるんだから
当たり前でしょ…

はっ…♡

なや♡

ビチャ

なや♡

ビチャ



もっとえっちな
キスしよう…

キスはどんどん深くなる。
唇で口全体を覆う美咲
綾華が歯の間から舌を出す
美咲が舌を絡めとる。

いい…

んっ…♡

おっ♡



あぁっ…

んんっ…

たっぷりと唾液ののった、
いやらしい暖かな舌の感触が
とても気持ちいい。
二人の舌はさらに絡み合った

そういえばあたし
お母さんが
ファーストキスかも…

照れた表情で美咲が
口にすると綾華は
微笑んで優しく頭を撫でる

そう…
お母さん美咲の
はじめての人になれて
とっても嬉しいわ…

母の甘い優しさに、
美咲は嬉しくてたまらない。
綾華は唾液まみれの美咲の
唇にほのかなキスをした。



再び綾華は美咲の唇を合わせると
舌を大胆に動かしていく。
美咲の歯をねぶって、歯の隙間に
舌尖をいれ口の奥の舌を絡めとる



んあっ…♡

んっ…♡

んっ…♡

はあっ…

んっ…

母の舌は柔らかくて熱い
唾液まみれの舌がぬるぬると
這い回る感触はとろけそうな
ほど気持ちがいい。

ああ...どうしよう
気持ちよくてこのまま
いっちゃんそう...♡

んんっ...

じゅわ♡

ちゅ♡

だめよ...まだまだ
これからなんだから
まあキスだけで
イクなんてことないけど♡

んあっ...♡

じゅわ♡

ちゅ♡



女同士のキスは長く執拗だ。
絶頂を迎えることがないから
いつまでもお互い終わらない



また抱き合って髪を触ったり、
乳首や背中を指先でタッチする
呆れるほど長いキスを繰り返す
それらは飽きることはない

ふと二人は唇を離し、お互いを見つめ合う。お互いの心を確認しあっている
言葉はなくても通じ合う二人

あたし、お母さんの
オナニーみたい…♡

あたしもよ…
二人でお互い並んで
見せ合いっこしましょう

二人は申し合わせたかの
ように自然に身体を離して
次の快樂のために身体の体勢を
変え、床に座り込んだ。



二人が床に座ると大きく
股を開きお互いの性器を
覗き込んだ。

わぁお母さん
改めて見ると
びっしり毛が
生えてるね…♡

そうね…
美咲くらいの頃は
生えてなかったから
心配しないで

真っ黒な茂みは白の肌と
コントラストをなしていて
力強く、湿気もかなり
含んでいるように見えた。



まず先に綾華が率先して
秘芽を指の腹で
ちよんちよんと触る
これが綾華のやり方だ。

へえ…お母さんって
そういうふう
に始めるんだ

あんっ、
ああっ…うっ
んんっ…

指先の動きはかなり
なれていて、直前のレズキス
のおかげで秘芽はもう
かなりヌルヌルだ。



んしょ、よっと、
じゃああたしも
はじめる…♡

美咲はそろえた端正な指を少し
だけ折り曲げ、そっと自分の
股間に当てる。
母の手つきとよく似ている

美咲のやり方が見たいな…
お母さんの真似じゃなくて…♡

はあっ…

目を細めながらも
娘の股間を観察し、凝視する。
自分のやり方をみて
真似ているふうに見えたのだ。





お母さんの真似じゃないよー
あたしもいつも
こうやってるんだよ

親子だとオナニーのやり方
まで似てくるんだって…♡

そんなことって
あるのかしら…
でもお母さんなんだか
嬉しいわ…♡

あっ…

クキ♡

クキ♡

ビク♡

ビク♡

ビク♡



お母さんアソコ、
毛が真っ黒に生えてて
大人でいいなあって思う…

それ考えてたら
気持ちよくなってきた…

美咲ちゃんのおまんこも
薄いピンクで新品みたいで
とっても可愛いわ…

綺麗で
憧れちゃう…

お互いの性器を見せ合い、
褒め称えながら自慰するのは
恥ずかしい気持ちで胸が
いっぱいになる

あんっ…
あああうう…
ああっ……

うっ…

美咲の指遣い、
参考になるわ…

しかしお互い自分の一番
恥ずかしい行為を見せ合う充足感
は孤独な虚しいオナニーにはない
かけがえないものがある



綾華の中ではっきりと
絶頂に向かう予感を感じ始めた
中指と薬指を熱い膣ひだの中に
出し入れを始める

わぁ…ぬるぬるの
指が二本もアソコに
出たり入ったりしてて
いやらしくてすごい…!!

やだっ…
変な実況しないで…

普通は褒められない行為を
娘に褒められたせいか膣ひだが
歓喜したように蠢いて
指を引っ張り込むように動く



部屋中に汗のツンとした匂いと
淫蜜の甘い香りが充満する
興奮した女の身体から出た
体液の匂いは淫靡に混ざり合う

あ…はあん…
あたしも指、
一本だけ入れてみた…

無理しちゃだめよ…
美咲ちゃんのおまんこは
まだちっちゃくて
不十分なんだから…

口ではそう言いながらも
娘のか細い指が膣ひだに埋まったり
出たりしている官能的な様子から
目が離せなかった。





ああん…んはあっ…

いいっ…♡
あっ…♡
んっ…♡

んん…ああっ…
いいっ…

あっ…はあっ…

ぴゅ

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

静かな部屋に濡れた性器を
いじる音とちいさな嬌声
だけが聞こえる。
互いの性器を見つめあう二人。

あ…んあっ…
いくっ…

あんっ…♡
いい…♡
ああっ…♡

イキそう…はあっ…

あ…いくっ…
はあっ…

いいっ…♡
ああ…♡
いいよっ…♡



はあ…このままだと
二人ともいつも通り
オナニーだけして
イッちゃうよ…

そうね…あたしも
美咲のおまんこ
舐めたいわ…



じゃあ私から
お母さんの
アソコ舐めるね！

あたしお母さんの
アソコ舐めたい…♡
間近でみて
触りたい…♡

ふふ…はじめてで
上手できるかしら

二人は手を動かすことは
やめずに身体を動かして
次の体勢に移っていく



股を開くと娘はすぐに
鼻がつきそうなくらいに
女性器に顔を近づけ
まじまじと観察した

そんなに嬉しいように
見られると嬉しいわ♡

自分のそれとは違う穴を
憧れと好奇の目で見つめる
匂いを嗅ぐ鼻息が荒い





こんなに小さな穴から
あたしは産まれたんだね...

女の人のアソコを
近くで見るの、初めてだから
ドキドキしてきた...



近くで見られると
疼いてきちゃった…

色があたしのと違って
少し黒ずんでいるんだね

お母さんしっかり
使い込んできたからね…
汚くてごめんなさい



灰色の肉髪は物欲しそつに
収縮を繰り返し
独特の匂いを放っている

ううん、色っぽくて、
大人の匂いがして
素敵だよ

あたしも素敵な経験を
たくさん積みめば
こういう色になるのかな







娘を自分の慰めに使っちゃう
こんなお母さんでごめんね

あっ…

でも美味ちゃんの舌遣い
すごく気持ちよくて
初めてとは思えない位
上手よ…

んふっ…

舌の水音は次第に
大きく小刻みになり
静かに部屋に響き渡る

あぁっ…はぁぁっ♡

あたし嬉しいよ、えっちな
気持ち全部受け止めてくれる
優しいお母さんで

あたしの舌でお母さんが
気持ちよくなってくれるなら
こんなに幸せなことないから



きこえない舌遣いで
日頃の感謝の気持ちを込めながら
母の秘芽を舐める娘

ああん！
ダメよそんなに激しくしたら
すぐイッちゃいそう！

健気に母親の女性器を
弄ぶあどけない少女の姿は
理性を吹き飛ばすに十分だった





ああっ！

いい…いいっ！

いいよ、イッてイク時の
女の人のアソコが
どんな風になるか
見たいから

それより、手を握って…
お母さんを
もっと感じたいの…

手を握るとぐっしょりと濡れており
その時初めて娘がオナニーを
しながら自分の性器を
いじっていたのだと気づいた

あ…お手で濡れてる…

んっ

んっ

手娘の愛液のぬめりと熱さを
素手で感じ取り
人生で感じたことのない
興奮を覚えた





水音が多いと思ったら
お母さんのおまんこ舐めるの
オカズにオナニーしてたのね
はしたない娘…

うん、興奮しちゃって
我慢できなくなっちゃった
一人でオナニーするより
興奮するね♡

あのままオナニーしてたら
お母さんより
先にイッちゃいそうだったから
今は舐めるのに集中するね…

ペロ♡

ペロ♡

クキ♡

クキ♡

ビク♡

ビク♡

ビク♡

クキ♡

クキ♡



はじめは性教育の一環と思い
娘の前で絶頂に達する前に
止めようと思っていたが
もうどうでもよくなっていた

あぁ...
お母さん...
もうイクね...

んっ

んっ

娘は手を強く握り返す以外
何も返事せず黙々と
女性器を舐める事に集中した
匂いを嗅ぐ鼻息は荒い

はあんっ

あんっ♡

んっ♡

んっ♡

舌の動きはさらに加速し
母の愛液と娘のヨダレで濡れた
クリトリスをたっぷりとねぶる





絶頂の合図の潮吹きを口で
健気に受け止める少女
あまりの勢いで溢れた分は
顔全体に受け止める



ご…ごめんなさいお母さん
本当にイっちゃった

はあ…

娘の綺麗な顔を
おつゆで汚して
悪いお母さんね

口とは裏腹に娘の美しい顔を
自分の潮吹きで汚した事実に
悦びと満足感を感じている



子供の頃から
一度も見ることがないような
いやらしい目つきで
果てた蜜壺を見つめる少女

いいよ、あたしの舌で
イってくれて
本当に嬉しいよ

イク時のアソコの
ビクビクって
動きが舌で感じれて
楽しかったよ♡

初めて愛する人を
絶頂に導いた嬉しさと自信が
彼女の顔つきを
完全に女の表情にしていた





あなたが楽しそうでよかったわ
美咲が楽しいのが
お母さんの一番の幸せなの

つまらない世間体や
自分のはしたない欲に
気を取られて

美咲の気持ちを
全然考えて
あげられないダメな大人ね

母との会話に応じるが、
目を合わさず果てた蜜壺の
次の動きを興味深そうに
眺める娘

お母さんとはとても真面目な
人だからアタシなんかより
世の中の道徳を気にするのは
仕方ないよ

それより母親のアソコを
舐めながらオナニーする
ド変態娘を受け入れてくれる
お母さんは聖人だよ

娘は道徳よりえっちな事にしか
関心がないようだった



じゃあ次は、
美味のを舐めて欲しいな…

くっく…

ヒク

ヒク

娘は待っていられないと
ばかりに積極的に
大腿を開いて
性器をまる見えにした

顔を近づけると股ぐらから
少し酸っぱいツンとした
匂いと甘い香りが混ざり
官能を誘う



お母さんホラ見て
ダンスで鍛えてるから
これくらいのポーズ簡単♡

かわいらしい薄ピンクの
穴がつつましく覗く
赤く勃起し、キラキラと
濡れた秘芽が確認できた

あらすごいわね…
美咲ちゃんのおまんこが
見えやすくてえっちよ…





ふふ…すごくなんか
みられてる…♡
ちょっと恥ずかしいかな

でもアソコをこんなに
間近で見られるってすごく
興奮するね

あ…美咲のすごいなんか
動いてる…嬉しいそう

ヒク♡
ヒク♡

母の視線を一心に受けた
女性器は更なるうずきを感じる
肉ヒダは無意識の収縮を繰り返す

いけないことって
こんなに愉しくて
興奮するものなんだね…

あたしもさっきまで
今の美咲ちゃんみたいに
すっごく興奮してたのよ





…やっぱり人に見られるのって
恥ずかしいね
こんなはしたない格好で…

恥ずかしがることないわよ
綺麗で可愛らしくて
ずっと見ていたいわ

優しい言葉に反応してか
花びらは嬉しそうに
ヒクついている

そ…そうかな



これから舐められるって
思うと楽しみなのと
こんなことしていいのかわかって
いうのが二つあるんだけど...

...そうね...
美咲ちゃんちゃんと
真面目に考えられる
いいこね

でもお母さんがそんなこと
考えなくていいくらい責任持って
いっぱい気持ちよくしてあげるわ♡

ヒク
ヒク
ヒク



それにしても本当に綺麗で
可愛いわね...いやらしくて
ずっとみていたいわ

ずっと見てないで
早く舐めてよ...
まだイッてないんだから
じらさないで...

お母さんも
あなたくらいの時は
これくらいピンクで
綺麗だったのかしら

なんか、すごくじれったいけど、
みられているのも
楽しくなってきちゃった...♡

経験の浅い穴は
この状況を愉しみながら
物欲しそうに濡れている

こうやって気持ちいを
少しづつ高めるのが
えっちの時は大事なのよ♡





おもむろに
濡れた娘の首を
優しく舐め始める母

あぁっ…

あん♡

んんっ…

あ…♡

気持ちいい…

ん…

んんっ

んっ…

クワッ♡
ヒク♡
ペロ♡
クワッ♡
ヒク♡

ペロ♡

ビク♡

ビク♡



んんっ...

ああっ...

人にアソコ舐められるって
こんな感じなんだ...
気持ちいい...

んんっ

ん...

んっ...

美咲ちゃんのおまんこ、
濡れててつるつるで
舐めやすいわ...
とっても美味しい...♡

ぺろ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡

くっ♡



お母さんの紙め方って
あたしと違って
すごくゆっくりだね

あっ…

でもすごくいやらしくて
なんだか気持ちいいみたい…

うっ…

んっ…

んんっ

そうよ、あなたはまだ若いから
少しせつつきすぎよ

ぴゅ

ぴゅ

ぴゅ

ぴゅ

ぺろ

ぺろ

ぴゅ

実践を通し愛の性教育を
する母の言葉を興味深げに
熱心に耳を傾ける娘

あっ…

美咲の整った顔と
その澄んだ目線の先には
自分の性器を夢中で舐める
母の瞳があった

相手の感じ方も考えて
してあげるともっと
気持ちよくなると
思うわ…♡

んっ…

んんっ





次第に舌先の動きが
速くなっていく
ふたりと楽しみに集中し
会話が少なくなる



はあっ…

ああっ…♡

もっ♡…♡

いいよ…♡

あっ…

あっ…♡

ん…ん…

んっんっ

っ…





もうイク…
イっちゃうよお…♡

あたしお母さんに
アソコぐしょぐしょに
舐められてイっちゃう…♡

いつでもイッて
いいわよ…
思いつきり
イッてちょうだい…!!









んもう、舐めすぎだよお母さん
次のことやろうよ...♡

あなたははじめてなんだから
知らないといけないことが
たくさんあるわ

お母さんがレズで知っていること
責任を持ってきちんと教えるから
ついてきてね

へろ♡

へろ♡



娘の美咲は母の綾華にキス
すると右手で身体を固定し
左手を下半身に伸ばし、
陰毛を掻き分ける

あっ…♡

ああんっ♡

今度はあたしの番だよ…っ

あっ…!!
そこっ、
そんなに急に…
ああんっ♡

自分をイかせた母に、
今度は指でいやらしい声を
上げさせてみたい。美咲は
濡れた陰唇に指を這わせる



お母さん大好き…♡

…あん…っ

はあ…っ

私も美咲が
大好きよ…っ

美咲は先ほどの母の激しいクンニで
身体には、かなりの疲労が溜まっていた
だが、体内から湧き起こる性の衝動が
休息の欲求を遥かに上回っていた

撫で回す速度を上げると
綾華が身体をくねらせ始めた。
娘に全てを委ねるのは自尊心が
許さないのか声を出さず唇を結ぶ。

はぁっ…

あん、あぁっ…♡

そんなに、
急に早くしないで…
はぁぁっ…♡

我慢すればするほど自尊心の
高い綾華は感じてしまっ
娘に支配される屈辱に抗うが
下の口は快感を甘受する



いつも高潔で気高い母が
自分の眼前で快楽に惚けた
表情をしている。さっきとは
違う高揚感で全身が総毛立つ

可愛がる方からだと
こんな感じに見えるんだ…♡
こんなに濡れてるよ♡

今はあたしのペースで
やらせてね…♡

はぁっ…
変な触り方しないで…

んんっ…

直前まで受け身だった美咲に
とっては新しい発見だった。
美咲はもう一度唇を奪い、
口内に唾液を浴びせ舐め上げる。





綾華からはっきりとした嬌声が
漏れ始めたことに、美味の幼い
自尊心が満たされる。嬉しくて
同じところを何度も刺激する

陰裂を掻き分けると
硬く勃起した秘芽がのぞく
露出した秘芽を薬指で
引っ掻くように擦り付けた

うっ…

あぁっ…

ほら…お母さんのここ…
ぬるぬるで大洪水だよ…

あんっ…
美咲…
あぁっ…

綾華の陰裂は指に絡みつくと
愛液で溢れており、少し掻き回した
だけで音が出る。未知の女性器の
世界に驚きを隠せない美咲。



女の人のアソコって
こんなにも濡れるもの
なんだね…
全然知らなかった…

んんっ…

美咲に触られているからよ…
女の子は好きな人に
触られると
いくらでも濡れちゃうの…

優しく諭されると、
攻めている美咲も疼いてしまう。
美咲は火照った綾華の肌に
身体をさらに密着させた





お母さん可愛い…
んんっ…はあっ…
お母さん！

美咲は届く範囲で頬、鎖骨、首筋に舌を這わせる。繊細でハリのある肌が汗でしっとり濡れている。汗をしっかりと舐め取り身体を震わせる美咲

いやん！

はあん！

あん、あん…気持ちいいよ…
美咲にされると私、
もうおかしくなっちゃうわ…！

愛する母の真剣な眼差しで
快感を告げられて、興奮で
頭が沸騰する美咲
再び唇を激しく吸引する。

あう…んあつ…
はあつ…

あぐ…はあつ…

はあんっ…
はあ…
んあつ…

ちゅっ…
じゅるるる…
ちゅっ…

本能のままに舌を口内に
突っ込むと、唾液を舐め回す
するとお漏らしをしたのかと
思っほど陰裂から淫蜜が溢れ出た



舌を奥にねじ込み、激しく舐め合う。
指で肉ヒダを押し広げ、
淫蜜に塗れキラキラと輝く肉真珠に
攻撃を集中させる

あ…いくつ…
はあっ…

お母さんのっ…♡
クリちゃん…♡
すごく硬いよっ…♡

あ…両方なんてんあっ…
いくっ…

はんっ…♡
いい…♡
あヒイっ…♡

イキそう…はあっ…

すっかり柔らかくなった
熱い肉ヒダを指で繰り返し擦る
舌と陰核の同時攻めに、綾華は
狂ったように絶頂に達する。





綾華の膣から白濁し泡立った
淫蜜が溢れ出てお尻まで
流れ落ちた。美味はそれを
指で絡めとる

美咲は淫蜜でべっとり濡れた指を
女性器から離すと、そのまま口にやり
母の目の前で指にたっぷりついた
白濁した淫蜜をなめとった

んふ……♡

ふふ、お母さんのおつゆ、
とっても美味しいよ……
もっと欲しいな……

ふう……

妻かったわ美咲……
とっても上手で驚いたわ……
今度はお母さんが
やってあげるわね





ああんっ♡

あっ…♡

んん…っ

うっ…っ♡

はあっ…

今度は母の綾華が娘の美味を
優しく持ち上げ、美味の膣を
撫でながら自分の方に
引き寄せた

ぐちゃぐちゃ



あん…♡

綾華の右手の指が、
美咲の陰裂をきめ細やかに
優しく撫で回す。

はあ…っ

ここ…♡

一方左手の指が、胸、頬、耳、
首筋を手慣れた手つきで
くすぐりつつくりすめほど
気持ち良かった



お母さん…♡
とっても気持ちいい♡

美咲はあまりの心地よさに
甘い吐息を漏らし、
壁にもたれかかる

はあっ…

そう？嬉しいわ…
もっと色んなところ
触ってあげる…♡

綾華の指先は、突然場所を
変えて、尻の谷間に滑り込む
お尻の割れ目をくすぐられて
新しい感覚が湧き上がる。



はあん♡ちょっと！
どこ触ってるの母さん！

あら、あんまり
気持ちよくなかった？

え…！
ちょっと
よくわからなかったけど…
ヘンな感じだったよ

いきなり尻の間を触られて
薄気味悪い感覚だった。
だが同時に妖しい感覚も
感じ取り美味は戸惑う



んもうっ…
変なことしないでっ

あん…♡

わかったわ、美咲
怒らないでね…

はあっ…

口では謝っているが
可愛い娘の新しい性感帯を
続々とか髪しているのだと思うと
興奮が止まらない綾華



あんっ…
ああ…
お母さん……

美咲ちゃんのえっちな顔
可愛いわ…♡

普段は聡明な顔立ちを
している綾華だが娘を愛撫して
いる綾華はニヤついていて
いやらしい顔をしている

あんっ…♡

美咲はその表情に
レズビアンとしての本性を
解放させているのだと
思い自信がついていた



攻め手としては手練の
綾華は素直で恥ずかしがるな
反応を返してくれる美味が
愛おしい

お母さんうますぎっ
いいっ…

んっ…

あんっ…

んっ…



すごいお母さ…んっ…
イクっ…あたし…
あっ…あたし…
あっ…あっ…!!

美咲ちゃんのおまんこも
すごい濡れてるねえ…♡
喜んでくれるのが直に
感じてとっても嬉しいわ…♡

美咲が途切れ途切れに
喘ぎ声を漏らしながら
齒を食いしばる

もっすぐだと理解した綾華は、
全身から汗を流しながら
愛撫のペースを上げていく



愛腰を撫でまわす
手つきがさらに加速し、
絶頂寸前の腰がさらに
激しくはねる

いいっ…
はぁあんっ…

はぁ…あんっ…

あぁん…あっ…
ふぁっ…

はんっ…♡
いい…♡
あぁあぁっ…♡

綾華は最後の仕上げと
ばかりに、押しつぶす勢いで
クリトリスを思いつきり
指で擦った



んっ…♡
ああ…♡
はあっ…♡

ああいっ…♡
あん…♡
いっ…♡

あイク…いくっ…
ふはあっ…

いつちやうよお…ああっ…

あん…はあっ…
いくっ…





とっても気持ちよかったよ…♡

ああ……♡

はあっ…

ふっ…

綾華は娘を絶頂にさせた
ことに大いに満足していた
快感の波浪が引いた後二人は
身体を抱き寄せてキスをした



絶頂に達し、疲れ果てた二人は
休息を取り
しばらく時間が経った

二人はあの後服を着ないまま
リビングで楽しいひと時を
満喫していた。

うふふ…♡

可愛いね…♡

娘の美咲の方からせっかく
二人きりだから今日は
裸のまま生活したいと
提案してきたのだ



父親が不在の女二人だけの
リビングで全裸で過ごす
ことは開放感があつて
自由になった気がした

いつもの感じと全然違うね…♡

本当…なんだかすごく
刺激的…

いつも食事をしたりテレビを
見たりして家族の団欒の時を過ごす
リビングで全裸の生活をするのは
とても新鮮でエロティックだった



二人はさっきまでショッピング
モールで買ってきたスイーツを
お茶を淹れて食べたりして
空腹を満たした。

マカロン美味しかったね

美味しかったね
いつもより甘く感じた

全裸で日常生活をするには
普段とは違う考えとより深い
心の交流を可能にし、
深い繋がりを育んでいく。





お母さんはね：若い頃に
当時付き合ってた女の子と
今みたいに全裸で共同生活を
していたことがるのよ

なにそれもっと
詳しく聞きたい！

ええっ…！

この開放感はお互いの心の
壁を解きほぐし、
普段は話さないようなことを
語るようになっていた

当時付き合ってた女の子と…
それともう一組のレズ友達の
合計四人で生活していたわ…
大学生の時ね

流石にずっと裸じゃないけど
試験が終わった後は
全裸になって暇な時間は
好きな時にセックスしてたわ

ええ…すごい…
全然知らない世界だ…

真面目なお母さんにもそんな
時代があったんだね…



お互いの恋人を交換しあったり
四人で仲良く乱交したり…
思いつく性的な不道德は全てやったけど
四人ともとっても幸せだったわ…

わぁ…羨ましい…
でも…その三人とは
どうなったの？

母の素性を知るのが嬉しくて
無邪気に聞く美味。母の綾華の瞳に、
複雑な感情を含んでいたこと
全く気づいていなかった





いろいろな理由があるけど…
やっぱり女性同士のカップルっていう
人とは違う生き方をしていくのは
とっても難しいことなの…

私と付き合っていた人も生活苦で
男の人とお見合いして結婚して
安定した生活を手に入れたわ…
お母さんみただけだね…

An anime-style illustration of two nude women in a bathtub. The woman on the left has short black hair and is looking towards the right. The woman on the right has brown hair tied in a bun and is looking towards the left. They are both smiling and appear to be in a relaxed, intimate setting. A green plant is visible on the left side of the frame.

…なんだか辛気臭く
なっちゃったわね…
美咲ちゃんはこんなこと気にせず
今はのびのびとしてほしいわ

…うん…どれだけやりたいように
楽しくやっても人と違う生き方って
やっぱり大変なんだね…
あたしも頑張らないと！

どれほど伝わってくれたか
はわからなかったが、
彼女なりに健気に
理解してくれたようだった。

やや暗くなった空気に対して
話題を変えようと
別の告白を始める美咲

あたしね…お母さん以外にも
ダンススクールの同級生にも
えっちな目線で見ちゃってて
いけないことなかなって悩んでたけど

お母さんの大学時代みたいに
みんなと一緒にえっちしたり
交換しあったりするの
楽しそうだなって思ったの。





うん…あたしもスクールの
みんなとえっちなことしたり、
この部屋で裸で過ごしたりたいな…
できたらお母さんと一緒にいいな…♡

そうね…本当はみんなもっと
自由な生き方ができるんだから
美咲ちゃんもいっぱい
いろんな挑戦したらいいわよ

美咲の夢の話で明るくなってきたら
なんだかまたえっちしくなっちゃったわね…
そろそろまたやろうか…

うん…♡あたしもまた
したくなってきちゃった一日で
こんなに身体がイキたがってる
のはじめてだよ…♡

二人は見つめ合つと再び
キスをしあってお互いの身体を
まさぐりだす。身体の疼きに
素直に従い次の行為が始まる





ああんっ♡

あん……っ

あっ……♡

はあっ……

ふふ……♡

ぴゅ

ぴゅ

ゆん

ゆん
ゆん

まだ慣れていない娘の美味を
母の綾華がリードするように
優しく抱きしめる

あん…♡

あ…はあ…

ふあ!?

目に見えて身体と表情が固く
余裕がない美味の秘部を
綾華が予告もなしに
撫で始める



急な展開にからさまに戸惑いを眉に滲ませる美咲。だが覚悟を決めたように目を閉じる…

はあっ…

んちゅ…

ちゅ…♡

綾華がそっと唇を重ねる。美咲は息を止め、母の葛藤とこれまでの人生に思いを馳せ、感傷を募らせる。



股間の不意打ちと綾華への
思慕で無防備になった美咲の
弛んだ唇に、綾華が舌を
一気に差し込む

ちゅっ…

ちゅる♡

んはっ…

んっ…♡

美咲の口内を掻き回し、
誘い出した舌を勢いよく
ちゅるちゅると吸吮する。



綾華の舌に合わせて美咲の舌も
無意識に動かしてしまっ
瞳がとろんと蕩けてくる
母と娘が濃厚な口付けを交わす

あんっ…♡

んんっ…

んんっ

んんっ
んんっ
んんっ

んんっ

気持ちよくなってきた…

はあっ…

負けてられないと思ったのか、
美咲も大胆に綾華の股間に
手を伸ばし、拙いながら
丁寧に撫でまわし始めた。





はあっ…

美咲ちゃん
べろべろしてくれて
可愛いね…♡

ちゅる…

んちゅ…

あたしもお母さんに
アソコ触られるの
大好き…♡
ああっ……

美咲はいきなり痴裂に
指を食い込ませる。
柔らかくなった肉ヒダを
掻き分け優しくくすぐる。

あんっ、ああっ……!!
美咲ちゃん……んんっ
そんなところ……
ああん!

んんっ……

娘の指先の快楽から体を跳ねる
綾華は内腿をこわばらせながら
自分から脚を開いてもっと深い
愛撫を求めてしまう。

ああっ……

綾華も乳房を掬い上げるように
揉み始める。乳房を揉み
しだかれるリズムに合わせ、
美咲の背中が何度も反り返る。



あはあ…はんっ…
あぁっ…

喘ぐ美咲の唇を綾華が舐める。
股間と唇、乳房を同時に攻められる
快感に、思わず身体を仰け反らし、
ソクゾクが止まらない。

ヤァん…すごい…
もっと、あぁん…!!

母の相手は自分しかない
という自覚から愛撫にも
気合いが入る。強張る指で
綾華を抱きしめる美咲。





あ...いくつ...
はあっ...

あ...はあっ...

あ...んあっ...
はあっ...

あ...ん...♡
あ...♡
あ...♡
あ...♡

いきそう...はあっ...

あ...んあっ...
いくつ...



先に絶頂に達したのは
美咲の方だった。柔らかい
身体をガクガクと震わせ
陰裂から恥蜜を吐き出す

あっあ…っ♡

イクっ…♡

んあ…っ！



はあっ…

ああ…♡

あたし、お母さんより
先にイッちゃった…

ふうっ

いいわよ…
お母さんも美咲の
指ですごく気持ちよく
なれたから…♡

…それじゃあ美咲
次はお母さんと一緒に
シックスティナイン
やりましょう…♡

シックスティナイン…?
一体なにをすることなの?

無邪気にシックスティナインの
意味を聞いてくる娘に、まだ
本当になにも知らない純真さに
気づき興奮してしまう。



まずお母さんが美咲ちゃんの
顔の上にまたがって、
そのまもおまんこを
舐めてもらうの。

舐めてもらいながら
そのままあたしが美咲ちゃん
のも舐めてお互いの性器を
舐め合う性行為のことよ

…わあ！世の中にそんな
えっちなことってあるんだ！
早速やってみようよ！

クニニを知りながら
シックスティナインを知らない
不釣り合いさと無邪気さに
感動を覚えた



ほらっ
こうやってお互いのおまんこを
同時に見てるって思うと
すごくえっちでしょう？



わあ...っ♡
すごくいい眺めだね...
なんだかさっきより
ヒクヒクしてるみたい

目の前の光景に我慢できず、
お互いの性器をいじり始める
二人。性器がうごめく動きが
大きくなっていく。

いこ...っ♡

ああん...♡

あっ...♡

...あん...っ

はあっ...

んん...っ

ああんっ♡



綾華の舌と、美咲の陰核が擦れ合い、脳髄まで快感が溢れ出る。部屋には静かに性器を舐める水音が響く。

ああ…♡

ああ、すごい
気持ちいい…♡

はあっ…

美咲は負けじと両手で陰唇を大きく開き、舌を押し当て、粘膜の裏から陰核の先端まで繰り返し舐め上げる。



甲高い悲鳴が
リビングに響き渡った。
綾華の股間にも次の
絶頂が迫っていた。

ああっ、そんな急に
すごいじり方
しないで…♡

さっきまでの
お母さんへの
お返しだよ…♡

あッ♡



んっ…

あぁっ…

あんっ…♡

ふっ…

お互いの快楽が更なる刺激を
求めあう妖しい循環。さつき
達したばかりの美味の性器も
どんどん過敏になる。

綾華が完全に開放された陰裂
を優しく撫でる。すかさず美咲も
淫蜜でいっぱいになった綾華の
割れ目を舐め上げる

ぬるぬると絡み合う舌と粘膜
熱い吐息を感じ、思考が鈍る
舐めて、吸い付き、貪り尽くす

あああっ…

あっ…

あああっ…
お母さんのアソコ…
すごいヒクヒクしてて
悦んでるみたいだよ……





やああああ！…見ないでえ
見ないでえ！

わああ！…すごい
お母さん、
おしっこしてるみたい
にイッっちゃんだ！

美咲は目を見張った。
綾華の股間から痙攣と共に
たまりに溜まった淫蜜が
ドバツと溢れ出てきたのだ

淫蜜が滴り落ちるその真下には
美咲の口があった。それを
なにも考えずに飲み込むと
激しい悦びに背筋が震えた。

ああ、いいわ…
あたしのおつゆ、
いっぱい飲んで
ちょうだい…♡

美咲はぐいっと綾華の脚を開くと
顔を思いつきり突っ込む
愛液と唾液が混ざった口の中の汁を
綾華の肉壁に流し込んだ。



もうお返しや反撃なんて
考えられなくなっていた。
お互いの性器を貪り、囁られ、
身体が全て湧けてしまっていた。

ああんっ……♡
あ……♡
あはああっ……♡

ん……はあっ……

あ……んあっ……
ああっ……

口綾華がお尻の谷間の蜜を
舐め上げる。美味が繰り返
陰核を吸い上げる。美味の
身体は再び絶頂に向かう





ちゅるっ...♡
いい...♡
ああんっ...♡

ああん...♡

いいっ...♡
あん...♡
あっ...♡

んちゅ...いくっ...
んっ...

あ...いいっ...
ああっ...

イっちゃう...はあっ...



あはあ…っ！

あん…っ♡

あああんっ…♡

ああああっ…♡

イクっ…♡

ああああ♡

若い美味はさっき
達したばかりなのに、
再び絶頂し、恥蜜を母親の
顔面にぶちまけた



あぁっ…

はぁ…♡

すごいよ…こんなに
短い時間で連続で
イッちゃったの初めて…
一人では無理だったよ…

二回連続でイッちゃうなんて、
本当に若いのね…♡

ふっ…

ふっ…



あっ…♡

よいしょっ…

はあっ…

んしょ…

二人は向き合々と脚を
少し斜めにして脚を
互いの股間に絡めた。



んふん、お母さんの
アソコは毛がびっしりで
ちくちくするけど…
とってもあったかいね♡

あんっ、美咲のおまんこ、
小さくてつるつるで
柔らかいね…♡

直前までの熱いテンションと
違っ、静謐な時間が
二人の間で流れ始めた。



はあっ…

ああん、これ、うれしいね。
どう、お母さん、
あたしのアソコは？

あん、だめっ、だめよっ、
美咲っ、美咲っ…♡

美咲は腰の位置を合わせると、
お尻を揺すり、秘芽に秘芽を
くっつけて遊び始めた。

いいっ…

おああん、ん…すごい…♡
美咲ちゃん、
大好きだよおっ♡

美咲もお母さんのこと…
大好きだよ…♡

美咲は体重をかけないように
注意しながら、ゆっくり腰を
まわす。

陰核同士がくっついて離れ、
お互いを押しめり込ませる。
そこから再び離れる感触が
とてつもなく気持ちいい。



んんっ…

美咲のおまんこぬるぬるで
すごくえっちな気分になるわ…

んふ、お母さんのアソコの
先っぽ、コリコリに勃起してて
くすぐったいよ

ああっ…

普段は真面目な母の顔が
官能に歪む様子を見ると、
愛おしくて、もっといじめて
やりたいと思ってしまう。





はあっ…

美咲…
もっとえっちになって…

ああっ…

うん…このまま二人
同時にイキたい…

んっ…

ぴゅ

くぐ

ぴゅ

くぐ

くぐ

くぐ

ぴゅ



あんっ…

ああんっ…
もうだめえっ
すごくいっつ、
感じちゃうう！

はっ…

ああっすごいっ
あたしも気持ちいいよ…！

んんっ…

綾華の陶然とした顔は
恐ろしくえっちで官能的だ。
見慣れた母の顔には見えず、
驚かずにはいられない。

最完全に二人だけの世界に
入っている美咲と綾華
二人を遮る観念は
はなにもなくなっていた

はあ…んんっ…
あぁっ…

ああ、すごいさっきイッた
ばっかりなのに
ここまで気持ちいなんて
信じられないよ…

こんな感覚も、
何度もイキそうになるのも
全部始めてだよ…

股間から分泌される
淫蜜の匂い、身体中から
吹き出る汗の匂い、女の子の
甘い香りが充滿している。





あ…はあっ…

はあ…お母さんも
女の人と貝合わせするのは
十年ぶりくらいで
とっても新鮮で気持ちいいわ…

ああん…美咲のアソコが
お母さんの元カノの
代わりになるなら、
あたしとっても嬉しいよ…！

あんっ…♡
ああ…♡
ああっ…♡



あ...いくつ...
はあっ...

イキそう...はあっ...

いいっ...♡
ああ...♡
いいよっ...♡

あんっ...♡
いい...♡
ああっ...♡

あ...んあっ...
いくつ...



あああ♡

あっ...♡
あああああっ...♡

イクっ...♡

あっあ...っ♡

ああ...っ!



あたしも今まで生きてきて
一番気持ちいい瞬間だったよ…
超気持ちよかった…♡

お母さん、とっても
気持ちよくて
幸せな時間だったわ…

ふっ…

はあっ…

ああ…♡

ふっ…

絶頂に達した後も
疲れ切った二人は身体を
離そうとせず、この上なく
心地よい甘い空間を作っていた

満ち足りた心で心地よい
疲労感を感じながら二人は
横になって休んでいた



なんだか今日はすごい日になっちゃったね…♡
今日のことは一生の大切な思い出に残ると思うな

うふふ…っ私もさつきいった時が
今までで一番気持ちよくて
幸せな時間だったわ…
ありがとうね…美咲





お母さんの人生で
一番幸せな時間を
作れて本当に嬉しいよ…

これから人生なにが起こるか
わからないけど今日のことは
ずっと大切に思うよ

お母さんも美咲が
本当の自分に自信を持って
くれて本当に嬉しいわ。

美咲が幸せになってくれるのが
一番だから、もっと自由に
いろんな人と付き合ってほしいな…



美咲が他の女の子と付き合うようになっても、お母さんあたしのこと嫌いにならない？

母の愛は恋愛感情より広いのよ
美咲が幸せになってくれることが
何よりの願いなの

この子ったら、大人になっても
お母さんとおうちしてる
わけにもいかないでしょう？



…あたしねダンススクールの子で
気になっている女の子が
いるんだけど、付き合いたいなって
思ってるんだよね…

いいじゃない…
美咲にはいろんな人と付き合っ
てもっと素敵な女性になって欲しいわ



今度部屋に呼んでみて
もうなにも考えずに
えっちしたいな…

大丈夫そんな時は
お母さんと混ざって
一緒にやろーよ！

んもう、そんなこと言って…
想像しちゃうじゃない…♡



夏休みの間はお父さんは
ずっと帰ってこないんだよね？

ならこの夏は毎日ずっと二人で
えっちして過ごせるね…♡

そうね…ゆっくりいろんなこと
教えながら過ごせるから
とっても楽しみね…♡



お母さんはこんな風な
生き方で
後悔はない？

レズやっていた時が一番輝いてたって
昔を懐かしみながら
生きてくんだなんて思ってたの

：結婚して大人になると、
安定して幸せな生活が
手に入ったけど...



やっぱり人と違う価値観で
生きていくのは
大変だよな…

でもその後こうやって美味と
人生で最高のえっちが
できたんだから…

後悔と妥協の中で生きていても
生きているとなにが
起こるかわからないわね



あたし…どんなに大変でも
今の一瞬一瞬の幸せな時間を
大切にしていきたいな…

そうね…全ては儚くて
どんな幸せもみんな過ぎて行くもの
だからね…今が一番大切よ…

綾華は美咲の頭を
そっと撫でると
小鳥がついばむような
優しいキスをした

夏休みの二人だけの生活は
これから始まる。
この幸せな時間はまだまだ
終わらせたくない。





サークル
リモリ会

作画
rimori

シナリオ
会

背景素材協力
みんちりえ
<https://min-chi.material.jp/>
33@素材屋
<https://33paradox.booth.pm/>



































